

Ⅲ-④ 学園地区合同防災の拠点として(合同研修会の開催)

令和2年1月23日(木)、附属坂出学園主催の「第1回学園地区合同防災研修会」を附属坂出中学校にて開催した。参加者は学園地区の5自治会の関係者、7校園の管理職、附属学園PTA役員、東部地区防災福祉部、坂出市危機管理室よりの計40名であった。

講師は香川大学危機管理先端教育研究センター長の白木渡特任教授。演題「南海トラフ巨大地震に備える～坂出市の被害想定と学園地区でできることは～」で講演をいただき、その後、各団体からの情報交換を行った。

白木教授は、「かがわ防災WEBポータル」を用いて、坂出地区での想定される被害状況や洪水のシミュレーション映像を用いての啓発と訓練の大切さを話された。また、これまでの優れた対策や事例も紹介しながら、7校園が密集している学園地区が自治体と協力しながら合同防災を進めることの大切さを語られた。特に、学校園に対しては、今、子供たちに防災教育をしていることは、やがて彼らが大人になったときの有事の際、リーダーとなって効果を発揮することを強調され、附属学園とは同じ香川大学、防災を進める上で大学からも力になると語られた。

今後も、香川大学や坂出市危機管理室の助言をいただきながら、学園地区の防災の拠点として地域貢献していく。

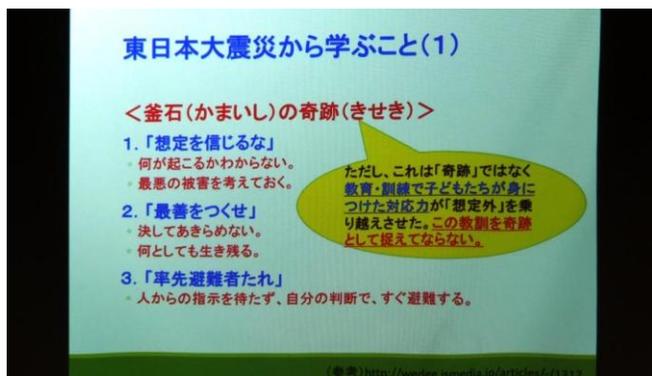
1 研修会の様子



① 自治会、学校園管理職、PTAが一堂に会して



② 防災ポータルで洪水のシミュレーション



③ 釜石の奇跡に学ぶ(教育の力)



④ 想定外の対応を(人間の行動特性から)



⑤ 附属学園の取組について指導する白木先生



⑥ 学園地区自治体の取組について(地域防災士)



⑦ 東部地区の防災について(東部地区防災士)



⑧ 坂出市危機管理室よりの助言

2 研修会の記録

(1) 白木先生の講話内容

南海トラフも東日本大震災と同じように5分ぐらいの時間で、2回揺れる。揺れが止まっても、数分間は注意しないといけない。熊本地震の時は、28時間くらいで次の地震が起こった。この状態になると皆、避難所の方に行く。

阪神淡路大震災が初めての震度7。火事もあった。火事が起こると大変なことになる。初動対応で火災を出さないようにすることが大切だ。生活の基盤になる役所が機能しなかった。坂出市役所を守らないといけない。また、拠点病院、道路や建物はすぐに直せない。避難の拠点である学校も大切。

熊本地震は、震度7が28時間後にもう一度。そこに置いてあるようなものがひっくり返って飛んだという記録が残されている。上に飛ぶというような形の被害が出る。大阪北部地震は、ブロック塀の問題が取り上げられた。

停電や液状化が問題になる。いろいろな機能が麻痺したときのことを想定して、事前に何を準備しておくかが大切。各家庭だけではなく、単位を大きくしないといけない。市町村の機能が喪失すると、生活の基盤が失われる。

釜石の奇跡 奇跡ではなく、教育・訓練で子供たちが身に付けた対応力が働いたのだ。今いるところに対して、どんな被害が起こるのか想定しておく。最善を尽くすことが大切だ。危機的状況の中でも動けるように訓練することが大切だ。最善を尽くせるよう普段から想定しておく。率先避難者足ることが大切だ。人の判断を待たず、自分の判断で、すぐ避難する。2番目3番目の避難所を作っておく。訓練しておくべきだ。

地震のことを己の問題として捉える。何が起こったか、何ができなかったか、何が足りなかったのか、何をしておくべきかを考えることが大切だ。現金は絶対持っておく。カードは使えない。備蓄も大切。地区で何百L等貯めておくことが大切。必要な水の量を想定し、避難所で確保しておく。南海トラフは香川県が四国の避難の拠点になる。他県から避難してくる人たちをどう受け入れるか。

<模擬訓練>

誰かが亡くなることを想定して訓練を実施する。例えば先生が亡くなってしまったときのことを想定して、先生がいなくても避難するというを事前に決めて行う。多彩な状況での訓練が大切だ。連携力を培っておかなければいけない。具体的な被害を想定し、仮想訓練する。特に、火災は怖い。香川県は死者数が3500人の想定。

<かがわ防災Webポータルについて>

クリックする箇所で、知りたい情報が得られる優れたもの。震度、液状化、津波等。液状化については、水がたまりやすいところなど、日頃から留意しておく。津波の1m~2mのものがやってくる。そして避難場所を考える等活用することが大切だ。浸水が30センチメートルを超えると逃げられない。ため池にも配慮する。

津波が来る時間も想定できる。坂出市は3時間。3時間はすぐだ。けがや死亡を想定したとき、時間はあっという間に過ぎる。訓練でもそれを想定しておく。そのためのハザードマップだ。

最近、風水害による浸水被害が多い。河川の氾濫は、津波に比べても大きい。土器川洪水氾濫シミュレーションはよくできている。啓発に効果的。真備町でもこれができたら……。

土砂災害も、見られる。意外に見過ごされるのがため池だ。高潮もある。これでいくと4mもある。津波よりも怖い。

<公助(1割)、共助(2割)、自助(7割)>

日本は安全安心の文化だが、行政がやってくれている。しかし、これまでの災害を見てみたら公助は期待できない。自助、共助を大切にしたい。

絶対に人間は逃げ遅れる。直感システムについては、日本人は鍛えられていない。命が危ないときにどうしたらいいのか正しく行動できない。避難生活でわがままを言わない。等は比較的日本人は教育されている。

頭が真っ白、金縛りの状態でこれを3分でやる必要がある。

⇒ 思考(危機的状況の把握)どのルートを通るかが防災のスキル

⇒ 行動(率先避難)誰かが動かなければ動かない。

人は必ず同調・追従する。いい方にしていこう。災害心理の罟を打ち破るためには「正確な知識」「謙虚に事実を受け止める心構え」「シンプルな行動手順」

緊急時に大切なことは、具体的状況をイメージし、シミュレーションすること。

外出時 横断歩道、歩道、電車のホーム、階段、エスカレーター、エレベーターでは？

何が起こるか。困るのは何か。地域規模で対策しましょう。

<住民・コミュニティに必要な自助と共助の防災力を紹介>

・仙台市立郡山中学校の取り組み事例

・2017年度 防災教育チャレンジプラン・最終報告書

<中学生が地域・小学校と協働する防災教育のねらい>

南海トラフは、現在の中学生が中核になって働かなくてはいけない。学園地区であることを活用することが大切だ。中学生が率先してやっていることが大切。次の担い手になるであろう若者を育てているのだ。

すぐく参考になる事例があるので、是非調べてほしい。高知県の大方高校はおもしろい。自分たちの手で地域の実情に合った避難を考え出した。守ってもらえるという受け身な立場を見つめ直し始めた。

災害は個別不平等。一律平等ではない。不平不満が出る。それに対しても啓蒙が大切だ。

ひとつの参考にしていただけたらと思う。

(2)学園の津波訓練について

3階に避難はダメ。こんなところに登って、火事が起こったら？浸水がずっと続いて、車が浮いて発火の可能性もある。瀬戸内側は時間がある。だから、その時間を有効活用する。避難指示が出たら、その時点で避難所にいなければいけないという認識を持って欲しい。

学校園は、一斉にみんなが逃げていく。大人数でいられるか。逃げるときに備蓄は持って行けるか。その当たりを含めながら考えていかないとけない。

(3)東部地区の訓練について(東部地区防災士より)

東部地区の合同訓練も進んでいる。小さい地域と学校等5年前から坂中に逃げている。避難経路を確認している。アンケートを採って見直しもしている。6年間、幼稚園とも一緒にやっている。100人ずつで参加し、歩く訓練をしている。大人は川津まで一時間近く歩くこともある。地域の危機意識を高められるようにしたい。お年寄りへの対応も考えている。小学校とも訓練を一緒にやりたいと思う。

いろいろな場合を想定して、例えば「ゆっくり」等、臨時情報が出る場合がある。ハンディキャップのある方については、組織が責任を持って避難しないとけない。臨時情報については、各組織単位でどうするのか考えておく必要がある。いろいろな角度から想定して、実際に動くのが大切だ。一斉には難しいので、優先的に避難していただく人を地域で考えておく。

幼稚園の避難訓練を通して反省した。避難経路を歩いて見直したい。このような講演はすくないので、今後も一緒に学びたい。

(4)学園地区の自治会より

自治会①

初めてやる防災に関する取り組み。100世帯。これからも参加したい。

自治会②

自主防災組織が立ち上がって10年。防災士の資格を5人が取った。8名の防災士がいる。50件足らずの自治会だが、防災意識が高い。訓練も年間2~3回行っている。避難所、炊き出しの訓練を年間通してやっている。

今後、文教地区ということで高校3校、中学校、小学校、幼稚園に子供が多い。これをほっとけない。秋の防災訓練は中止になったが、3名の副校長先生とお話する機会となり、研修の機会を得ることができた。

自治会③

防災組織をつくって取り組んでいる。

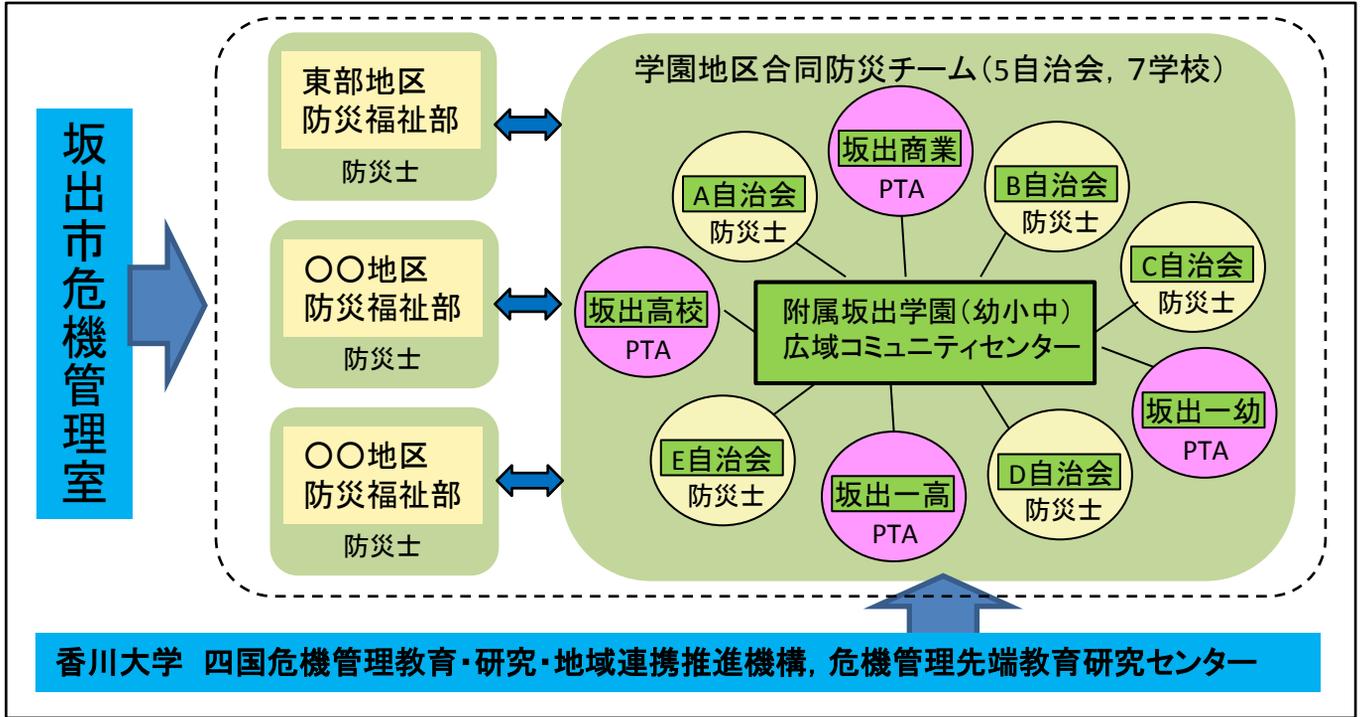
(5)坂出市危機管理室より

大変勉強になった。綾川のハザードマップも来年度作成予定。市の行政、自主防災組織等が連携を取って、今後もやっていきたい。出前講座もしているので気軽に防災のことを相談して欲しい。今後もよろしくお願ひします。

(6) 附属坂出学園あいさつ

南海トラフ大地震が起こったときに、北から南に多くの人々が避難。行政、学校、自治会が力を合わせ、命を守っていかないといけない。今日の会はそのきっかけになればと思う。今後もこういった機会を作り、お互いに学び合っていきたい。坂出地区の、「どこにも負けない連携」「主体的な学び」「実践的な訓練の視点」を学ぶことができた。

3 学園地区合同防災の拠点としての構想



令和元年12月25日

危機管理室長様
学園地区各自治会長様
学園地区校長様
防災関係者 様
松韻会役員 様

香川大学教育学部 附属幼稚園長 坂井 聡
附属坂出小学校長 坂井 聡
附属坂出中学校長 高木由美子
附属坂出学園松韻会会長 宮本 昌尚

防災啓発研修のご案内

師走の候、貴台には益々ご清祥のことと、お慶び申しあげます。日頃より、本学園の子供たちを温かく見守っていただきありがとうございます。

今年度より、附属坂出学園では改革の一つとして、「防災啓発コミュニティの場」としての地域貢献を掲げています。

下記の通り、香川大学特任教授 白木渡先生を招いて、「防災啓発研修会」を開催いたします。共に防災について考えていければ幸いです。是非、参加いただきますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 令和2年1月23日（木） 18:30～20:00
- 2 場 所 香川大学教育学部附属坂出中学校 多目的室
- 3 内 容 講話

「南海トラフに備える～坂出市の被害想定と学園地区でできることは～」

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
危機管理先端教育研究センター長
香川大学特任教授 白木 渡 先生